

ふるさと 再発見

広川町郷土史研究会

学校と教育制度の変遷 その2

～ 村の合併と村落小学の統廃合 ～

村の合併に伴って、
村落小学も統廃合となる

明治9年(1876年)三瀧県では、地租改正に伴う村の合併があつて、現在の広川町域では、21カ村から12カ村となります。現在に続く大字は、その名残りです。

なお同8月21日付をもって、三瀧県は廃され、筑後地域の10郡は福岡県となります。

さらに同10年になりますと、それまでの村落小学の統廃合の動きが出てきます。まず同1月には、水原小学(所在地は上馬場)、8月には広川小学(所在地は知徳小学の在った場所)、同じ年に新代小学(所在地は吉里)、日吉小学(所在地は太原)、川上小学(所在地は増永)ができています。「尋常小学校沿革史」をみますと、いずれも民家を借りて教育に充てる、と記されています。

参考までにご紹介しておきますと、現在の広川町域の戸数は1825戸、人口は9023人(『福岡県史資料』でした)。

同12年には、一條町(おおむね国道209号沿い、現在は筑後市)に、広川小学一

條支校が設置されています。多分に、児童の通学の便を考慮してのことではなかったかと考えています。2年後には、一條村字前川原に架橋(現在の下広川橋)し、通学の便を図ることによって、広川小学一條支校を廃する(『下広川尋常小学校沿革史』)とあることからわかります。

同15年8月には、広川小学では借家を購入して校舎狭隘の不便を除く(同前)とあり、この時に太田村も広川小学の通学区に編入されています。

同16年4月には、新代・日吉・川上の3小学が廃止となつて、久泉小学が新築統合しています。久泉小学の設置場所は、久泉村字一本松、地番は久泉村705の1番地です。

久泉小学新築に伴い、従前の水原小学(水原村字宮ノ脇)は、久泉小学水原分校となります。さらに逆瀬谷にも久泉小学の分校(場所は水原村字南屋敷)が設置されています。

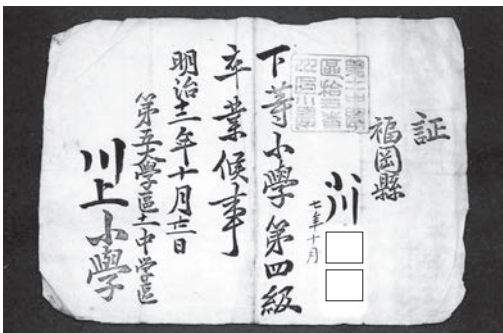
同19年には、右の久泉小学水原分校が、鬼ノ淵(水原村字西山仁田)に移転され、逆瀬谷分校は廃止となつていま

す。これにより水原分校の通学区は、従前の逆瀬谷を除く水原村全区から、梯・鬼ノ淵・逆瀬谷と変更になっています。

同21年になると、久泉小学水原分校は、水原小学簡易科と改称されます。時を同じくして広川小学にも、簡易科が設置されています。

「小学校令」により、尋常小学校と高等小学校となる

同25年4月1日付で、従前の各小学は、水原尋常小学校・久泉尋常小学校・広川尋常小学校と変更され、初めて小学校という名称が付けられます。



▲川上小学の卒業証書。進級も現在とは異なっていた。

広川町古墳資料館だより

うきは市では、円形の両側に方形の墳丘が付いた双方中円墳が調査され、注目を集めています。

広川町では、九州縦貫自動車道建設に伴って、8の字形(双円墳)の「山の前3号墳」(現

在は消滅)が1972年に調査されています。

報告書では、子ども用の小円墳築造後、その親の円墳をひっつけて築造されたものと考えられています。古代の親子の愛情が感じられる古墳です。



▲山の前3号墳の8の字形古墳(双円墳)